



Info Mart

(自主公演のチケットのお求め・お問合せはこちらへ) 04-2998-7777 | <https://www.muse-tokorozawa.or.jp>

vol. 121

スペインの至宝
—伝説の美声にふれる夜

ホセ・カレーラス
[テノール] ▶ P1

《レクイエム》の
ミステリー

モーツァルト
《レクイエム》ニ短調 K.626
▶ P3

世界を驚嘆させる
鬼才が放つ新境地
ファジル・サイ [ピアノ]
▶ P5



スペインの至宝——伝説の美声にふれる夜

ホセ・カレラス

「テノール」

José Carreras
in Tokorozawa MUSE

スペインの国宝とも評され、パヴァロッティ、ドミンゴと共に『三大テノール』として世界を席巻したホセ・カレラス。30代で欧米のオペラハウスを席巻して以来、70歳を超えるいまもお聴衆を魅了してやまない奇跡の歌声と輝かしいキャリアをたどる。

神に祝福された天性の歌声

1946年、スペインのバルセロナに生を受けたホセ・カレラスが演奏史に名をのこす偉大なテノールの一人であることに疑問をはさむ余地はないだろう。現在、録音でその歌声を聴くことができるテノールだけでも、カルーソー、スキューバ、ジューリ、デル・モナコ、ベルゴンツィ、クラウス、パヴァロッティ、ドミンゴと名歌手は多いが、カレラスは輝かしいキャリアにおいても150を超えるレコーディングの素晴らしさにおいても、こうした歴史的名歌手に連なる存在であること、

とは間違いない。特にカレラスの役柄の心情が溢れ出るような情熱的な高音とリリカルで甘美な表現は、歴代の歌手の中でも特筆すべき個性であり、デビューから40年以上にわたる世界中のファンを魅了し続けている。

スカラ座、ウィーン国立歌劇場——世界の頂点へ

8歳でスペインの国営放送で歌声を披露したカレラスは、同じバルセロナ出身の名ソプラノ、カバリエのサポートで1970年代に活動を本格化させると、その優れた歌唱は、



20世紀最大の指揮者カラヤンとは1976年に初共演。カラヤンの助言によりカレラスはより幅広い役柄に取り組みようになった

すぐに注目を集め、パルマ王立劇場（1972年／ボエーム）、ウィーン国立歌劇場（1974年／リゴレット）、ロイヤル・オペラ（1974年／椿姫）、メトロポリタン歌劇場（1974年／トスカ）、ミラノ・スカラ座（1975年／仮面舞踏会）など一流歌劇場に次々とデビューを果たす。世界最高峰の舞台でも、カレラスは甘く抒情的な歌声と格調高く美しいディクシオンで絶賛を浴び、加えて端正な容姿で多くの女性ファンを獲得するなど、30代にして人気・実力の両面において音楽界の頂点に君臨することになる。

カラヤン、バースタイン——巨匠たちをも虜に

カレラスの卓越した歌唱と芸術に対する真摯な人柄は、音楽ファンだけでなく多くの名指揮者をも虜にしよう。帝王カラヤンは1976年にヴェルディ『レクイエム』で初めてカレラスを起用すると、その抒情的な美声を絶賛し、その後も『ドン・カルロ』『トスカ』『カルメン』など数多くの舞台やレコーディングでカレラスを指名した。アバドやマゼール、シノーポリやレヴァインと言った一流指揮者も次々にカレラスを指名。1984年には、バースタインが自作の大ヒット・ミュージカル『ウェストサイド物語』を全曲録音するにあたり、トニー役にカレラスを起用したことも大きな話題となった。

白血病からのカムバック——奇跡の『三大テノール』

キャリアの絶頂ともいえる1987年、カレラスを突然の悲劇が襲う。急性リンパ性白血病である。カレラスの病状を知り世界中から骨髄提供の申し出があったというが適合するドナーがおらず、当時最先端の自己移植という治療により奇跡のカムバックを果たす。カレラスの復帰を祝うべくパヴァロッティとドミンゴが出演する『三大テノール』が企画されたが、当時3人は激しい火花を散らすライバルであり、特にパヴァロッティとドミンゴには指揮者の迷惑やレコード会社の利権が絡む確執があり実現は困難に思われた。ところが、カレラスのマネージャー

愛する日本の聴衆へ——伝説にふれる夜

1973年、NHKホールの落成にあわせてNHKが招聘したイタリア・オペラで初来日を果たしたカレラス。当時、まさに世界の頂点へと駆け上がろうとする気鋭のテノールは『椿姫』のアルフレードで大喝采を浴びた。日本文化を愛し、日本の聴衆を愛するカレラスは以降たびたび来日を果たし、多くの舞台やコンサートで歌唱芸術の真髄を披露してきた。2021年もコロナによる入国制限の中で来日を果たし各地で見事な歌声を披露した。長年歌い続けてきた愛唱歌をじっくりと聴かせ、コンサート終盤ではカンツォーネも交え聴衆を沸かせる。そして、アンコールはもう独壇場。ヘクター・カタリ（ヘグラナダ）などカレラスの代名詞ともいえる名歌を次々と繰り返し出し、30年前にタイムスリップしたかのような熱唱に聴衆も総立ちの拍手で応える感動のステージとなった。神に祝福され、世界に愛された奇跡の名歌手ホセ・カレラス。その伝説の歌声をアークホールでぜひ体験していただきたい。

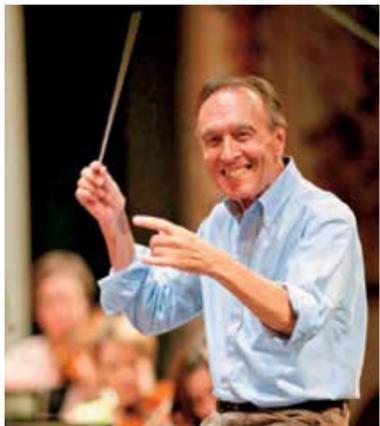
ホセ・カレラス[テノール] ロレンツォ・バヴァーイ[ピアノ]

11月7日(月) 好評発売中
18:30開場 19:00開演 アークホール
料金◆ S席:¥23,000 A席:¥17,000
B席:¥13,000
プラチナ席:30,000円
(豪華公演プログラムをプレゼント)
S席:¥19,500 A席:¥14,500
メンバーズ 特別 B席:¥11,500
プラチナ席:26,500円(豪華公演プログラムをプレゼント)

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、公演の中止の可能性がございます。最新情報は所沢ミュージズ公式ホームページでご確認ください。



バースタインは自作の『ウェストサイド物語』の全曲録音でカレラスを起用。レコーディング風景を追ったドキュメンタリー映像も話題になった



イタリアの名指揮者アバドとはバल्लीーオズ『レクイエム』、ヴェルディの『ドン・カルロ』(シモン・ボツカネグラ)などで数多く共演した



イタリア・オペラの殿堂スカラ座には1975年にデビュー。シャイとの『アンドレア・ジェニエ』など数々の伝説の名演奏を残した



ウィーン国立歌劇場には1974年に『リゴレット』でデビュー。白血病を克服した1989年には語り草となる復帰リサイタルを行った

1756年ザルツブルクで生を受けたモーツァルト。神童として名を馳せ、故郷の宮廷に音楽家として仕えたが、1781年に音楽に理解のない大司教に絶縁状を叩きつけ、父レオポルトの反対を押し切り音楽の都ウィーンへと活動の場を移す。宮仕えを捨てフリーの音楽家として生きるという25歳のモーツァルトの一大決心である。それから、1791年に亡くなるまでの10年は、モーツァルト、いや音楽史にとってもかけがえのない実り多き黄金の10年だった。《フィガロの結婚》《ドン・ジョヴァンニ》《魔笛》《三大交響曲》、数々のピアノ協奏曲やピアノ・ソナタ、《大ミサ曲》、そして《レクイエム》といった傑作はすべてこの10年に生み出されたことを考えると、西洋音楽史上に燦然と輝く奇跡の10年ということが出来るだろう。

The mystery of 《レクイエム》のミステリー Mozart's Requiem

モーツァルト《レクイエム》二短調 K.626

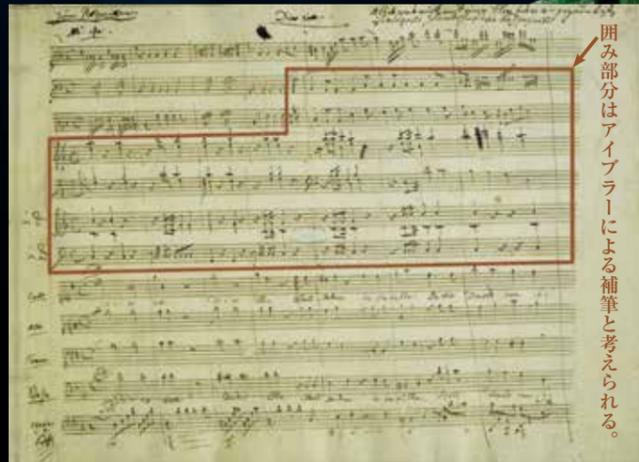
バッハの《マタイ受難曲》、ベートーヴェンの《第九》などと並び、人類の最も偉大な音楽遺産と言えるモーツァルトの《レクイエム》。その成立の背景には、最晩年に奇跡のような輝きを放ったモーツァルトの音楽と謎の男からの奇妙な依頼が複雑に絡みあう。未完のまま残された《レクイエム》の秘められたミステリーに迫る。



ヨーゼフ・ランゲによるモーツァルトの未完の肖像画 [1789年]。ランゲはモーツァルトの義兄にあたり妻のコンスタンツェもこの肖像画に気に入っていた。



ヨーゼフ・ランゲによる妻コンスタンツェの肖像画 [1782年]。コンスタンツェは未完で残された《レクイエム》の完成や出版のために奔走した。



囲み部分はアイブラーによる補筆と考えられる。

モーツァルトによる《レクイエム》の自筆楽譜。第3曲《怒りの日》の冒頭。弟子のアイブラーのオーケストレーションが書き込まれている(囲み部分)



モーツァルトによる《レクイエム》の自筆楽譜。第8曲《涙の日》の冒頭5小節。モーツァルトは8小節で絶筆したとされるが真偽は定かではない。



ウィーンの王宮近くのミハエル教会。モーツァルトの死の5日後の12月10日に追悼ミサが行われ《レクイエム》の一部が演奏された

バッハ・コレギウム・ジャパン 鈴木優人[指揮]
モーツァルト《レクイエム》

10月28日(金) 18:15開場 19:00開演
アークホール **好評発売中**

料金◆全席指定 S席¥6,000 A席¥5,000
学生席(25歳以下): ¥3,000

メンバーズ特割 S席¥5,000 A席¥4,500

出演◆森麻季[ソプラノ]、藤木大地[アルト]
櫻田亮[テノール]、ドミニク・ヴェルナー[バス]

曲目◆交響曲第39番 変ホ長調 K.543
レクイエム 二短調 K.626

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、公演の中止の可能性がございます。最新情報は所沢ミュージクス公式ホームページでご確認ください。



1791年、死の年の8月末、プラハでのオペラ上演や《魔笛》の作曲で多忙を極めるモーツァルトは、突然見知らぬ男から死者のためのミサ曲《レクイエム》の作曲依頼を受ける。作曲料は二説によれば100ドゥカーテン(約200万)と、当時としてはかなり高額であり、しかも半分は気前よく前金として支払われた。謎の使者は「作品は好きに書いてよいが、依頼主を決して詮索しないよう。」と奇妙な忠告を残して去ったという。後の研究により、実の依頼主はウィーン郊外に住むヴァルゼック伯爵であり、完成した《レクイエム》を自分の作品として演奏し、若くして亡くなった妻に捧げようと計画していたことが判明する。そんな思惑を露知らぬモーツァルトは9月末に《魔笛》を完成し初演を成功させると、すぐに《レクイエム》の作曲に取り掛かる。しかし、その後11月下旬にはベッドから起き上がれないほどに体調が悪化し、未完の《レクイエム》を残して12月5日未明に永遠の眠りにつくのである。

妻コンスタンツェは依頼主との約束を果たすべく、弟子のアイブラーに《レクイエム》の完成を託すがアイブラーは何故かこの仕事を断ってしまう。そこでモーツァルトから《レクイエム》の構想と作曲の指示を受けていたとされるジュスマイヤーに補筆を依頼する。ジュスマイヤーが本場にモーツァルトから作曲の指示を受けたかについては確たる証拠がなく、今日の研究ではコンスタンツェが愛人関係にあったジュスマイヤーに完成を依頼し、それを正当化するため「ジュスマイヤーはモーツァルトが信頼する弟子であり、死の床で作曲の指示を受けた」と書き残したというのが現在の定説となりつつある。いずれにせよジュスマイヤーにより補筆・完成された《レクイエム》は、1793年1月にファン・スヴィーテン伯爵の計らいで妻コンスタンツェのため初演され、一方匿名で作曲を依頼したヴァルゼック伯爵も、その年の12月にヴァルゼック伯爵の作品として自らの指揮で《レクイエム》を上演したのだ。

数々の傑作により作曲家としての人気と名声を確固たるものとしたウィーン時代のモーツァルト。演奏会や宮廷作曲家としての報酬、作曲料でかなりの収入があったが、浪費癖はそれを上回るものだったようだ。豪華な部屋に住み、高価な衣装を身に付け、派手な交友やキャンブルに興じるうちに支出がかさんだ。妻のコンスタンツェも高額な湯治にしばしば出かけるなど借金が積み重なっていき、亡くなる直前には3000フロリン(約1500万円)の借金があったとも言われ、この経済状況は《レクイエム》の完成の過程にも影響を及ぼすこととなる。1791年12月5日にモーツァルトが天に召されると、その名声の割に葬儀や埋葬は簡素に済まされた。ウィーン郊外の共同墓地に葬られたことまでは判明しているのだが、モーツァルトがどのように埋葬され、遺骨がどこに眠るのかは今も判らないままで。

世界を驚嘆させる 鬼才が放つ新境地



ファジル・サイ [ピアノ] FAZIL SAY

© Marco Borggreve

世界で最も強烈な個性を放つ天才ピアニスト、ファジル・サイが2012年、2018年に続き所沢ミュージズに3度目の登場を果たす。「トルコ行進曲」での鮮烈なデビューから今日にいたる輝かしい足跡を辿る。

鬼才の誕生—— トルコからドイツへ

1970年、東洋と西洋の文化が混在する神秘の国トルコに生まれたファジル・サイは、幼いころから覚えた旋律をすぐに楽器で演奏して両親を驚かせるなど才能を発揮。5歳でピアノを始めるとすぐに作曲と演奏の両面で卓越したセンスを示した。祖国のアンカラ国立音楽院からドイツのシューマン音楽院へ留学。その後、ベルリン音楽院で研鑽を積み、1994年ヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝。以降、アメリカやヨーロッパの名だたる一流オーケストラや数々の名指揮者たちと共演を重ねている。

鮮烈なるデビュー盤—— トルコ行進曲

ファジル・サイが広く世界の注目を集めたのは、1998年にリリースされたデビュー盤『サイン・プレイズ・モーツァルト』。トルコ生まれのサイに「トルコ行進曲」でデビューさせるレコード会社の巧みな戦略もさることながら、類を見ないほど生命力に富んだモーツァルトはヨーロッパで旋風を巻き起こした。ダイナミックな音楽づくりに、燦めくような装飾音をふんだんに散り

ばめた即興的なモーツァルトに「やりすぎ」との批判もあったが、色彩的で繊細なタッチと、全身音楽の化身となって躍動するサイの演奏は世界の音楽ファンを魅了してしまっただけでなく、

世界を震撼させた 衝撃の『春の祭典』

2000年にリリースされたストラヴィンスキーの『春の祭典』は、モーツァルトをしのぐほどの衝撃を全世界に与えた。4手のためのピアノ編曲版『ハルサイ』を多重録音を駆使して一人で演奏するという手法も衝撃だが、この作品がもつ複雑極まりないリズムをモノともせず、強靱なタッチと目くるめく色彩感でプリミティブな魅力を鮮やかに描きだしてみせた。このレコーディングでサイは「タダ者ではない」才能を世界中に印象づけたのである。

ピアノ&作曲—— 無限のバイタリティ

『トルコ行進曲』と『ハルサイ』が象徴するように、サイのレパートリーはあらゆるジャンルを網羅。クラシックの王道たる作品でも確固たる評価を築き、近現代、ジャズ、映画音楽、トルコの民族音楽などでも

絶賛を浴びる。年間100を超えるコンサートをこなす人気ピアニストとなったサイの躍進は、演奏活動だけにとどまらない。交響曲、ピアノ協奏曲、オラトリオといったヨーロッパのフォーマットの中に世界のあらゆる音楽的要素を盛り込んだ作曲家としての活動は、世界中から高い評価を獲得し、ザルツブルク音楽祭、BBC、ウィーン・コンツェルトハウスなど名だたる音楽祭やホールから数えきれないほどの作曲の委嘱を受けている。

ウィーン古典派× フランス印象派

所沢でのリサイタルでは、ウィーンの音楽（ベートーヴェンとシューベルト）と、パリで活躍したフランス印象派の音楽（ドビュッシーとラヴェル）の傑作を対比させる美しいプログラムが予定されている。ベートーヴェン自らが「幻想風のソナタ」と題した『月光』ではサイのイマジネーションが自由に羽ばたき、ベートーヴェンのソナタに憧れを抱き続けたシューベルトからは「第19番ハ短調」という、最もベートーヴェン的でドラマティックなソナタを取り上げる。後半は名作「月の光」を含む繊細な『ベルガマスク組曲』、そしてラヴェルの精緻な筆致が光る『鏡』ではサイの真骨頂とも言える豊かな色彩感が聴き手を魅了するだろう。誰にも真似のできない鬼才の描く音楽世界をぜひアークホールで味わってほしい。

ファジル・サイ [ピアノ]

2023年1月28日(土) **好評発売中**
13:15開場 14:00開演 アークホール
料金◆全席指定 S席:¥3,500 A席:¥3,000
メンバーズ特割 S席:¥3,000 A席:¥2,700
曲目◆ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番《月光》
シューベルト:ピアノ・ソナタ第19番 D958
ドビュッシー:《ベルガマスク組曲》
ラヴェル:《鏡》

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナの感染状況により公演中止の可能性がございます。最新情報は所沢ミュージズの公式ホームページでご確認ください。



自宅で猫たちとくつろぐサイ。ピアノの練習中や作曲中にも猫たちがお供することも…



ザルツブルクでのレコーディング風景。数多くの録音でレコーディング賞を受賞。近年はベートーヴェンやパッサにも取り組んでいる



作曲家としても国際的な評価を確立。ザルツブルク音楽祭、BBC、ラジオ・フランス、トルコの文化省などから数多くの作曲の委嘱をうける



ピアノをはじめた頃。ベートーヴェンやモーツァルトの作品の演奏と共に様々な作曲家の伝記も読み漁り、この頃から作曲にも憧れをもった



ぬいぐるみを抱きながら楽譜をながめる幼少期のサイ。耳から覚えた旋律をすぐに楽器で演奏して両親を驚かせた

ステージレポート

Stage Report

6月19日
～8月27日

2022

6/19 (日)

北欧・デンマークの調べ 夢風景の幻想曲 ドリーマーズ・サーカス

〈キューブホール〉
出演／ルネ・トンスゴー・ソレンセン[ヴァイオリン]
ニコライ・プスク[ピアノ & アコーディオン]
アレ・カー[シタール]

デビュー以来数々の音楽賞を受賞してきたデンマークが生んだ驚異のトリオが、所沢ミュージズに登場しました！北欧音楽にクラシックをはじめ多様なジャンルが加えられた大胆なアレンジと、それを演奏する彼ら3人の音楽性と多彩な才能はまさに超人的で会場は大盛り上がりでした。



ドリーマーズ・サーカス



音楽の絵本

7/9 (土)

親子で楽しむクラシックコンサート 音楽の絵本

〈マーキーホール〉
出演／ズーラシアンブラス[金管五重奏]、弦(つる)うさぎ[弦楽四重奏]
曲目／愛の喜び、リトル・マーメイドより「パート・オブ・ユア・ワールド」、
炎のバラード ほか

かわいさウツトリ弦楽四重奏団「弦うさぎ」と、これでも元王族スマトラトラや居眠りマイペースマレーバク達「ズーラシアンブラス」による豪華なコンサートへ、1000人をも超えるお客様にご来場いただきました。



小山実稚恵 [ピアノ] 川本嘉子 [ヴィオラ]

16 (土)

小山実稚恵 [ピアノ] 川本嘉子 [ヴィオラ]

〈マーキーホール〉
曲目／シューベルト：即興曲 変イ長調 Op.142-2 D 935 [ピアノソロ]
ブラームス：ヴィオラ・ソナタ第2番 変ホ長調 Op.120-2
ヴィオラ・ソナタ第1番 へ短調 Op.120-1 ほか

21 (木)

第111回所沢寄席 柳家喬太郎独演会

〈マーキーホール〉
出演／柳家喬太郎、一龍斎貞橋



第111回所沢寄席



能楽プレ講座

8/6 (土)

触れてみよう! 能楽の世界 関連企画 観て・聞いて・楽しむ能楽プレ講座

〈キューブホール〉
出演／遠藤喜久 (観世流能楽師)



“とことこ”探検ツアー

11 (木・祝)

夏休み! 所沢ミュージズ“とことこ”探検ツアー

〈アークホール〉
出演／三原麻里 [オルガン]、原田真侑 [オルガン]
ツアー内容／日本最大級のパイプオルガンを弾いてみよう!
パイプオルガンのミニ・コンサートを開催!
ホールや舞台裏を探検しよう!
照明のお仕事を体験してみよう!



能楽体験ワークショップ

11 (木・祝)

18 (木)

25 (木)

26 (金)

27 (土)

体験するとわかる能の魅力! 能楽体験ワークショップ

〈リハーサル室〉〈キューブホール〉
講師／遠藤喜久 (観世流能楽師)

写真撮影(市民カメラマン)/津田資雄(6/19)、中村仁(7/9)、由井一雄(7/21)、三平資郎(8/11・とことこ探検ツアー)

編集後記

今年の夏の暑さは異常でしたね。暑い日には冷たいアイスクリームやかき氷を食べたくなりますが、私は冷たいものが苦手です。食べられません。また不思議とカレーなどの辛い食べ物や、熱い食べ物も食べたくなるものです。しかし私は辛い食べ物も熱い食べ物も苦手です。どうしたらいいのでしょうか。(S)

チケットのお問合せは……ミュージズチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00～18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

所沢ミュージズ

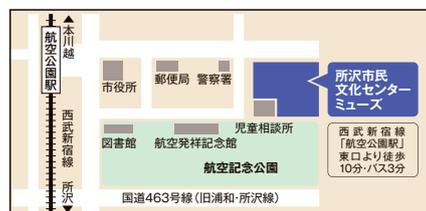
検索



クラシック・ポピュラー・演劇・寄席など多彩で魅力溢れる公演を開催しております!

詳細はミュージズホームページでご確認ください。

<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



*公演情報は2022年8月27日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなる場合がございますので、ご了承ください。

次回のインフォ・マートは2022年11月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。